

北海道原水協 F A X ニュース

原水爆禁止北海道協議会 Eメール hokkaidogensuikyo@pearl.ocn.ne.jp

電話 011 (747) 7557 fax (747) 7537 2015年10月26日

被爆70年を核兵器廃絶の転機に！

国連軍縮週間はじまる

原爆展、宣伝行動・・・

原爆パネル展は札幌地下街オーロラコーナーで30日(金)まで行います。まだパネルを貼っている最中にもかかわらず、1枚1枚パネルを見る人が見受けられました。



26日の昼には署名宣伝行動を中央区パルコ前で行いました。自由法曹団の神保大地弁護士が「生活に使われるべき税金が海外での人殺しに使われるようになる」と戦争法廃止を訴えました。北商連の長谷聡子さん(写真・左)は『被爆後70年、まだ生きています』と被爆者の証言を読み上げ、「原爆にあったせいで被爆者は普通の生活ができなかった、だから核兵器も戦争もいらない」と訴えました。北海道原水協代表理事の黒澤幸一さん(道労連議長)は、戦争の反省から二度と戦争をしないと決めた憲法を踏みにじる9月19日の戦争法強行採決は許せない」と核兵器廃絶と戦争法廃止の署名の協力を訴えました。



札幌地区労連、北海道勤医労、北海道高教組、国民救援会道本部、共産党道委員会、新婦人中央支部など17人が参加し、アピール署名23名、戦争法廃止の署名が11名から寄せられました。

道内の被爆2世 初めて語る



10月24日、札幌市内で中央相談事業相談会(北海道被爆者協会主催)が開かれました。「被爆2世として思うこと～両親のこと、折々のこと、健康への不安など～」と題して被爆2世の松田ひさえさん(旭川市在住)が話しました。母が放射能の影響、子どもを産むべきでなかったと悩んでいたことや、「俺は被爆者の子どもだよ。長生きできないよ」と言っていた一卵性双生児の弟が7月に心筋梗塞で急逝したことなど。「命の大切さ、平和の尊さを伝えていかなければと思うこの頃です」と結びました。相談会では、被爆2世の健康診断など2世対策とともに、被爆2世に声をあげてほしい、語り部を引き継いでほしいと強く要望されました。

